

委員会行政視察報告書

委員会名	空港等まちづくり対策特別委員会
出席委員等	南 良徳 委員長、谷 展和 副委員長、古谷 公俊 委員、澁谷 昌子 委員、大森 和夫 委員、和気 信子 委員、梶本 茂躰 委員、木下 豊和 委員、中尾 広城(議長) 【随行】藤原 秀紀 (議会事務局)
実施年月日	平成26年7月24日(木)～25日(金)
視察先	北海道苫小牧市(7/24) 北海道千歳市(7/25)
視察項目	北海道苫小牧市「まちなか再生プロジェクトについて(観光)」 北海道千歳市「観光の取組について」
視察結果	
<p>●北海道苫小牧市(7/24)</p> <p>最初に、金沢秀樹事務局長より歓迎の挨拶を受ける。</p> <p>苫小牧市の市制施行は、昭和23年で、地形的には、東西40キロの細長いまちで、特に、交通の便がよく新千歳空港まで車で30分、札幌市まで鉄道で50分のところに位置している。</p> <p>新千歳空港滑走路の1/3が苫小牧市の行政区域となり、人口は、17万4千人のまちである。また、気候は、積雪が多くなく、例えば、10センチ以上の積雪となる場合、除雪車がでることとなっているが、現状として、年に1,2回の出動となっている。</p> <p>苫小牧市は、昔から、紙のまちで「王子製紙(株)苫小牧工場」があり工業都市として発展している。さらに、苫小牧港の(陸地を掘り込んで造っており、昭和26年から造成し昭和38年に開港)貨物取り扱いは、北海道で一番である。</p> <p>他に、トヨタ自動車北海道(株)をはじめ出光興産(株)北海道製油所などの企業もあり、空路、海路のダブルポートをもちあわせるとともに、現在は、自然と緑豊かな環境を活かしたまちづくりに取り組んでいる。</p> <p>続いて、総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課武田涼一まちなか再生主幹より、視察項目「まちなか再生総合プロジェクトについて」説明を受ける。</p> <p>平成26年からは、プログラムパートII(平成26～28年度)の位置づけとなっている。40キロの東西に長いまちであり、以前駅前中心から郊外へと住居が移り、生活圏が広がってきた。2000年を過ぎてから市の東部に若い世代が住居をかまえ、ショッピングセンターが立地し、中心の駅前からデパートが撤退するような状況となった。地域全体の商業とまち中の魅力が落ち込んできた。現在、持続可能なまちづくりをめざしている。これまでの、商業政策のみの取組ではダメであるということから、CAPの取組に至った。</p> <p>(①投資の効率性②都市機能の集積③交流の拠点)</p> <p>民間、行政の協力のもと、「にぎわいの創出」「公共交通の利便性の向上」「まちなか居住の推進」の3つの基本方針をたて実行に移している。商業だけではむりであり、観光と地域ブランドをもって、人をまち中に。さらに、より広く観光のツールを使い、市外より人を呼込む取組をおこなっている。また、循環バス、快速バスの運行も計画している。</p> <p>広域での取組は、1市4町で、東胆振地域ブランド戦略事業を展開している。主な取り組みとしては、魅力の発信のため、札幌市などに出向きPRを行ったり、フェリーターミ</p>	

ナルにて、バイクツーリング、キャンピングカーなど観光客に絞りPRを行ったりしている。観光資源の一つである食文化を1市4町で研究をして、各地域の食材の詰まった

「^{ひがしいぶり}東胆振まるごとよくばり弁当」をつくり、週末1日60～70食を「道の駅ウトナイ湖」にて1,080円で販売している。また、民間の観光事業者と「官民連携観光戦略会議」を開催し、行政と民間の有機的な連携を強化している。

さらに、まちなかグルメ推進事業としては、ホッキライスバーガー、とまチョップサイダー、とまチョップガラナ、市内若手パティシエ開発によるスイーツ3点を「まちなかグルメ」として認定するなど事業を展開している。

苫小牧市では、全国的展開を図り「とまチョップ」キャラクターを活用し、まちおこしをめざしている。交流拠点として、まちなか交流センターを平成26年11月開設する予定となっている。

質疑では、まちなか再生総合プロジェクト事業の予算規模ならびにまちなか交流センターの指定管理事業者についてとキャラクターの委託先についてはどのようになっているのかとの問いに、予算面は、平成25年度予算として、全体で1億3千5百万円となっており、その内1億円は、まちなか交流センター建設に係る内装改装と初度備品等の経費であり、3千万円は、賃貸住宅経費、5百万円が毎年度の事業経費となっている。

交流センターの運営方法は、地元情報誌イベントの企業が指定管理者となっている。また、キャラクターの委託先は、市の職員がキャラクターの運営を行っているが、有償ボランティア5名の方にも協力をしてもらっているとのことでした。

次に、苫小牧市は、30～40代が中心のまちであるとのことですが、高齢者世代、買い物難民についてはどのような状況かとの問いに、市内西側地域では高齢化がすすみ、西から東側へスーパーも移って行ってしまっている状況下となっているため、特に今年度は、「買い物サポートマップ」を作製し全戸配布を行う予定であるとのことでした。しかしながら、最近では、コープ札幌による、週2便の移動販売やドラッグストアで食品販売が行われることにより、買い物難民となりつつあった地域が、一部解消されてきているとのことでした。

空き店舗活用事業についての補助内容と効果、キャラクターの知名度の向上策についての状況と現状はどうかとの問いに、空き店舗活用事業については、1週間のうち昼間に5日営業することと中心市街地の外より中へ入る条件で、店舗賃借料補助はかかる費用の1/2で、補助期間は12ヵ月以内5万円以内となっている。また、改装費用補助はかかる費用の1/2で、30万円以内であるとのことでした。また、ゆるキャラの知名度向上等については、市長自ら力を注いでいることと、ブームの前より苫小牧市において取り組むことができたことであるとのことでした。

●北海道千歳市（7/25）

最初に、奥谷則世事務局次長より歓迎の挨拶を受ける。

千歳市の概要説明では、人口約9万5千人で、現在も人口が伸びている。また、人口就業者の割合では、第3次産業が7割を占め、その中でも約20%を公務員が占めている。その要因は、市内に、陸上自衛隊2つ、航空自衛隊1つの基地が立地していることである。内陸型工業団地では、現在250社の立地があり、第2次産業も多く占めている。さらに、子育て教育に近年、特にちからを入れている。

定住人口のみならず、交流人口を増やすため、市として観光スポーツ部を組織し、また、2020年の東京オリンピックをターゲットとしている。また、新千歳空港の乗降客は国内線国際線あわせて、約1,890万人であり、いかに千歳市に呼び込むか取組を行っているところ

である。

続いて、今回の視察案件である「観光の取組について」、観光スポーツ部観光振興課横山貴史課長ならびに同課企画振興係澤田篤係長より説明を受ける。

市と千歳観光連盟が役割分担をしながら観光施策をすすめており、平成23年度から10年間の「千歳市観光振興計画」を策定している。観光関連のハード整備として、平成17年にオープンした「サーモンパーク千歳」の道の駅ならびに隣接する「千歳サケのふるさと館」は、来年8月にリニューアルオープンすることにより、併せて約20万人の利用者を見込んでいる。また、支笏湖のヒメマスについては、稚魚を育てるふ化施設の工事も行われている。

観光関連予算として、観光客へのPRのため2千3百18万円、キャンプ場などの維持管理で4千3百11万円、道の駅のリニューアルで1億3千万円、ヒメマスふ化場整備に1億8千万円の予算が計上されている。

観光のホームページならびに携帯端末は、重要なツールであると考えている。1,890万人の新千歳空港の利用者の市内への呼び込みのため、海外旅行者のプロモーションに参加するなど色々な取り組みを行っている。さらに、支笏湖の自然保護のためヒメマス釣りの期間を6/1から8/31の3ヵ月と限定している。また、「千歳観光マイスター」を育成する事業展開をおこなっている。

振興計画では、「回遊性の向上と滞在時間の延長」を基本目標とし「支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信」「観光資源の発掘と有効活用」「観光まちづくりとおもてなし意識の向上」「魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施」の4つを、施策の柱に据えている。

また、石狩エリアの6市1町1村で広域での取組をおこなっている。特に、『観光客の落ち込み』のため、冬場の宿泊施設の稼働率が下がるという課題に対し、支笏湖などでは、冬のイベントをうちだすなど、対策を行っている。

質疑では、観光案内所で外国からの観光客の対応についてどのような工夫をされているのかとの問いに、市内二カ所に観光案内所を設置し、英語、韓国語、中国語による観光案内書を作成している。近年、タイからの観光客が多い状況で今年度、タイ語版の案内書をつくる予定である。しかし、市内の案内板は、十分な状況でないためサイン、無線ラン、端末タブレット等の対応ができるようにすること等が、重要であるとのことでした。

観光、観光産業面で、近隣市との違いをどのように比較分析されているのか、また、ヒメマスの全国展開はすでにされているのかとの問いに、近隣の小樽市は物産部分（かまぼこ、お菓子等）が非常に強く、観光客は千歳市より少し多いが、大部分が札幌市に宿泊しているため、日帰りの観光客が非常に多い点が問題となっている。

また、千歳市は物産が弱く、協会も立ち上がっていない状況であり、観光連盟が物産を担っているが、現状としてはこれからであるとのことでした。

次に、ヒメマスの件は、支笏湖の水質は6年連続日本一となっており、プランクトンが少ないがゆえに、少しずつ研究者の方のご意見を伺いヒメマスのふ化増殖活動を行っているが、なかなか増すことができず、3か月間のみ釣りでしか獲れない現状のため、量的に確保できないため、観光客の皆さんならびに市民も食べることができない状況であるが、多くの皆さんに食べて頂けるようになるよう努力しているとのことでした。

観光地の特徴と環境全体を守る取組についてはどうかとの問いに、観光客の方には、千歳のファンになってほしいとの願いがあり、定期的に市民の皆さんと千歳川の清掃を行ったり、国立公園内では、地域住民の方によるゴミ拾いが行われ、お越しいただいた観光客の皆さんにきれいな国立公園を見ていただくために、環境の美化に取り組んでいるとのことでした。

千歳市への滞在策の取組はどのような状況かとの問いに、空港所在地の戦略として、空港を利用する観光客の皆さんは、空港に戻ってこられるため、戻る時間を早めにしていただき、まちに入ってもらえるよう対策をうちだす必要があり、例えば、空港を利用する観光客の方が帰りの便までの時間調整などのために、空港から車で5分の位置にあるアウト

レットモールを利用しやすいように、シャトルバスを運行している。

また、空港に一番近い道の駅では、道の駅の機能を活かし、空港からのレンタカー利用者に、まず立ち寄ってもらうよう努力をしているとのことでした。

<現地視察>

支笏湖ビジターセンターの視察を行った。

■総括

時間的配分の厳しい日程の中、視察が実施されましたが、苫小牧市ならびに千歳市の担当職員により詳細にわたり説明を受けました。その説明に対して、各委員から活発な質疑が行われ、大変充実した視察であったと考えており、十分に所期の目的を達成することができたと考えております。

今回の視察により得た内容については、今後の市政に反映させるとともに、市の発展につなげていきたいと考えております。

上記のとおり報告いたします。なお、資料等については、別添のとおりです。

平成 26 年 8 月 11 日

空港等まちづくり対策特別委員会

委員長 南 良徳

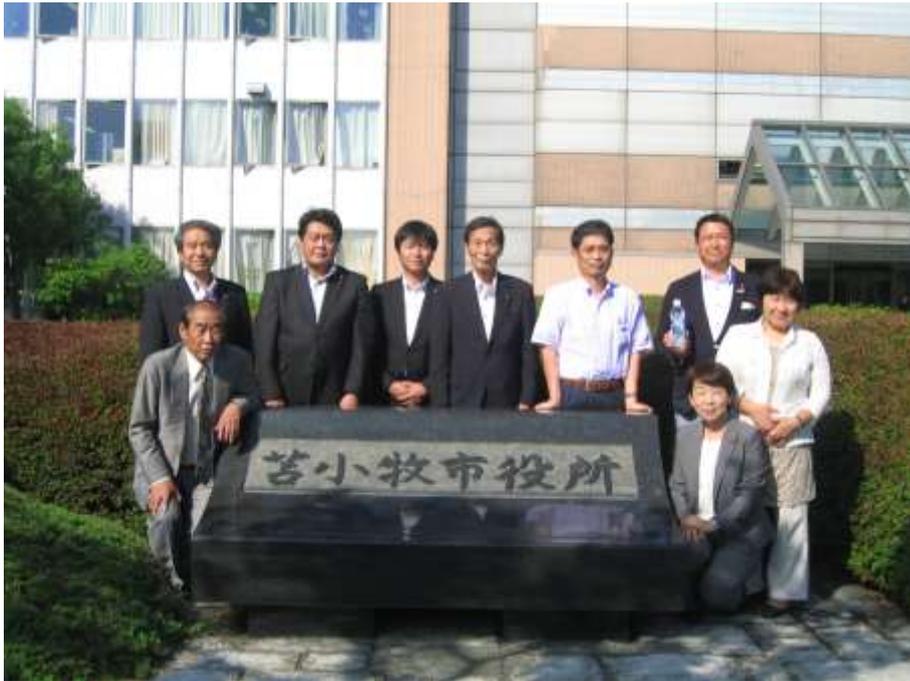
北海道苫小牧市視察



北海道苫小牧市議会事務局長より挨拶



会議風景



北海道苫小牧市にて

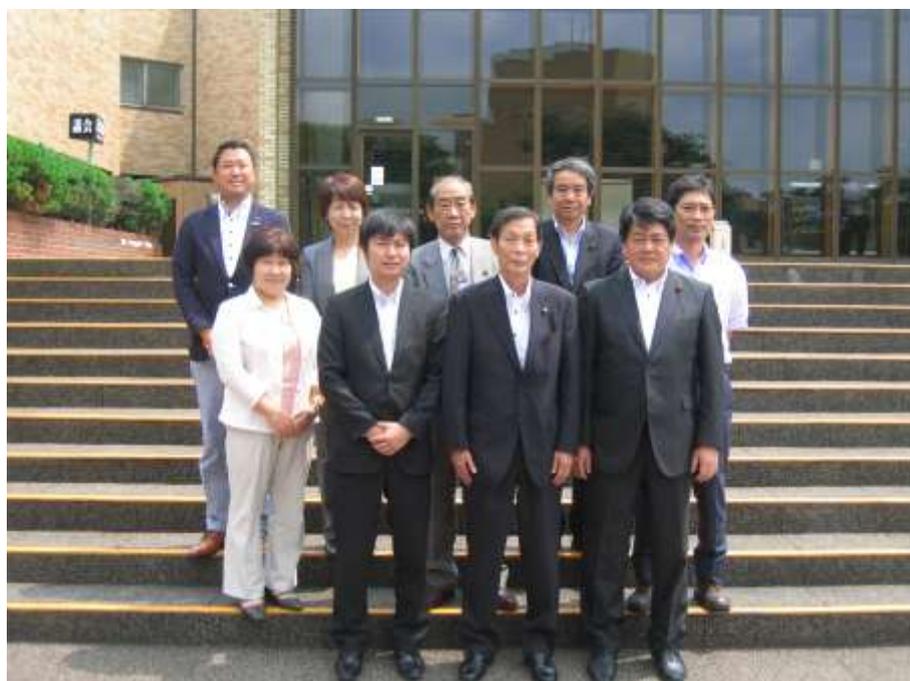
北海道千歳市視察



南 良徳 委員長より挨拶



会議風景



北海道千歳市にて